

# 技術部新規採用職員研修の実現

静岡大学技術部

○百瀬与志美

momose@shizuoka.ac.jp

## 1. はじめに

大学が社会や地域の要請に応えつつ発展していくためには、全構成員が大学の目的・目標をふまえ、主体的に資質を向上させ職務を遂行する姿勢が求められている。このため大学は構成員に様々な能力開発の機会を与え、相互啓発的職場環境の中で意欲的に能力開発に取り組める研修環境づくりを進めてきた。静岡大学においても「職員研修方針」、「研修体系」および「年度研修計画」が作成され、きめ細かな研修を実現している。近年は技術職員をマネジメント研修や主任者研修など従来事務系職員対象とされてきた研修へ派遣し、また海外研修への参加を実現するなど充実した環境が整いつつある。しかし、「研修対象者の選定についての調整」、「研修成果を評価に反映させるルールの確立」、「大学が企画する広範な研修への参加」など解決すべき課題も存在している。

技術部は技術者の視点から人材を育成するため独自研修の実現を模索し、昨年度は職名「技術職員」を対象とした研修を実施した。さらに本年度は新規採用職員に対し「技術職員」という「職」を具体的に理解してもらう必要があるとの認識から「技術部新規採用職員研修」を実現した。

## 2. 背景

技術職員組織化への動向の中で、技術職員個々の専門能力向上により大学における技術職員の業務、言い換えれば技術職という「職」を明確にする目標が掲げられた。これを実現するため部局の技術組織毎に、あるいは大学が主体となって様々な研修が提案・実施されてきた経緯がある。

部局組織毎の研修は次第に相互参加が常態化し、部局を越えた技術交流は全学的な「技術報告会」の開催へと発展した。大学間の交流からは平成5年度より「東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修」が開始され「機械」、「電気・電子」、「情報処理」など業務分野毎の公的技術研修が実現している。また、他大学等で実施される研究会、シンポジウム、学会の聴講や発表参加も進歩の激しい科学技術を支える技術職員にとって非常に重要な研修の一つとなっている。

技術職員の能力向上に向けた研修基盤が着実に整う中、技術部組織内から将来の技術職員像を考えた人材育成を「技術部」が行う必要があることが提起され、技術部総務委員会において様々な議論が行われた。折しも、「職員の職能開発(SD)」について静岡大学として取り組みを強化している期間であり、「学長裁量経費を得て技術職員が企画運営したSD研修を実現する」、「全国的SD研修へ参加する」などの成果と共に議論を深めることができた。

技術部総務委員会ではこれまでの議論から導かれた以下を考慮し「長期的視野に立った人材育成のための研修を実施する」を主題とした「研修の考え方」をまとめた。

- 技術職員の人材の育成については「大学人としての素養」と「技術者としてのスキル」常に二つの面から考える必要がある。
- 技術職員の専門性は一般事務職より狭義である。このため異動が困難となり、職を継承する手立てが必要となる。業務や個々の特殊性を考慮しなければならない。
- 静岡大学の場合、技術部組織の一体運営を実現するため、静岡、浜松、藤枝、上阿多古、本川根に配置された技術職員間の交流を欠かすことは出来ない。

これにより、職名「技術職員」に対し「現状認識と自己分析により、進むべき目標を明らかにする」をテーマとした独自研修を実施し、受講者から高い評価を得た。

### 3. 新規採用職員研修

新規採用職員は試用期間中様々な研修を受講し、大学人としての素養を十分に養っている。しかし技術部や他の技術職員の業務について理解する機会が用意されておらず技術部として早期に対応すべき課題となっていた。

#### 1) 研修の目的

静岡大学技術部は「全学支援」を掲げ、部局にとらわれない技術支援体制確立を目指して活動している。このためには広い視野を持った技術職員が不可欠であり、新規採用時から技術部が担っている様々な業務について具体的に理解させる事は長期的視野に立った人材育成のために重要である。さらに技術職員が身につけておくべき基礎的工作技術、PC 関連技術などについて学習のきっかけを与えることで自発的学習行動が期待できる。

#### 2) 研修内容

多様な業務について研修できれば良いが時間的制約もあり技術部の業務を大きく 3 つの系に大別し、それぞれに適した研修を実施した。すなわち、「フィールド系」、「情報系」、「もの作り系」であり、各系複数の部門が協力して研修内容を決定・実施した。

表 1. に研修内容を、表 2. に日程を示す。なお、当日の都合により一部内容が変更なった系もある。

### 4. 研修の感想

研修受講者の感想を抜粋して掲載する。

- 全体を通して、様々な分野の技術職員がいて、技術部の業務内容は幅広いと感じました。他分野の仕事を理解することは難しいですが、今回このような機会をいただけて自分自身とても刺激になりました。技術部として何ができるか、どんな職員になりたいかを考えていきながら、今後の業務に生かしていきたいと思います。
- 今回の研修では技術職員の業務内容について学びました。技術職員の業務内容は幅が広く、今回学ばせていただいたのはごく一部であったと思います。しかし、自分にとって新しいことだらけで、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。私は共同研究支援部門に所属していますが、他部門どころか、同じ部門の職員の業務すら把握していませんでした。また今回のような研修があれば積極的に参加していきたいと思います。
- 日頃、大学の技術職員としてどの方向を目指して、こういったスタンスで仕事を進めていけばよいのか迷いが生じていた自分にとって、今後の自分の仕事の進め方について見つめ直す良いきっかけとなりました。
- 全体を通しての率直な感想としては、技術職員それぞれの技術へのこだわりに驚いた。業務を体験する際、必ず手本を見せてもらってから作業に移ったのだが、真似できず失敗することが多く、その技術レベルの高さも実感した。

実施日 分類	9月14日 フィールド系	9月15日 情報系	9月25日 ものづくり系
担当部門	教育研究支援部門 フィールド支援部門	情報支援部門 共同研究支援部門	ものづくり地域貢献支援部門 プロジェクト安全衛生部門 教育支援部門
課題	夏季における農場、演習林業務への理解	静岡大学のネットワークシステムの理解	ものづくりの基本
目標	共同利用拠点として他大学からも多くの学生の実習教育を行っている。 その一端である農業体験を通じフィールド支援部門の業務について理解する。	静岡大学はメールを含め情報ネットワークで成り立っている。本学におけるネットワークシステムの全体像とそれを支える情報支援部門の業務について理解する。	研究支援、学生実験、試料作成等、日常業務の様々な場面で工作のスキルが求められる。初歩的な技術を理解する。
詳細	以下について講義と見学、実習を行う。  藤枝フィールド見学（60分）  講義（60分） ・ミカンの摘果  実習（180分） 1. ミカンの接木（60分）  2. 草刈機の取り扱い（120分）	以下についての講義と見学、実習を行う。 講義 ・学内LANの状況（有線と無線） ・情報セキュリティ ・支線管理者とは ・有用なソフトウェア ・アカウントの管理 ・工学部等でのH P管理 ・情報学部のネットワーク管理 見学 ・情報学部見学 ・情報基盤センター見学 実習 ・LANケーブルの作成 ・ルーターの設定 ・テレビ会議システムの操作 PS3システム Skype システム	工作機械による機械加工の基本を学ぶ  1. 工作機械の旋盤についての基礎研修をする。 ・安全教育 ・基本操作方法 ・ステンレス丸棒の外径加工 ・穴明け加工 2. ボール盤の基本取り扱い ・けがき作業 ・ポンチ作業 ・ドリルによる穴明け作業 3. 放電加工機の基礎の基礎研修をする。 ・形彫放電加工機の基礎及び取り扱い ・炭素棒電極の作製 ・製作した電極を用いてステンレス棒の加工をする。

表 1 研修内容詳細



ものづくり系実習



フィールド系実習

## 5. まとめ

受講者全てが本研修に肯定的で彼等が抱える不安や、もどかしさに適切なケアができたと考える。技術部としてこのよう視点を持つ技術職員が増えることで技術部組織も活性化し、しいては大学の教育・研究の質の向上に繋がる。継続的に2年度、3年度という研修について検討したい。また、「採用した職員を技術部がどの様に育てるのか」この点について深い議論が必要であると感じている。

### 平成27年度技術部 新規採用者研修 日程表

会 場：藤枝フィールド

平成27年8月7日

8:00 30		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00 30	14:00 30	15:00 30	16:00 30	17:00 30
平成 27年 9月14日 (月)		受付	見学	講義 ミカンの 摘果	休憩	実習 フィールド支援部門				

会 場：浜松キャンパス 情報学部、電子工学研究所

8:00 30		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00 30	14:00 30	15:00 30	16:00 30	17:00 30	18:00 30	19:00
平成 27年 9月15日 (火)	技術部 受付 挨拶	統括技術 長 (講話)	テレビ会議システム の運用 ルーターの設定 共同研究支援部門		休憩	ネットワーク講義と実習 情報支援部門				情報交換会		

会 場：浜松キャンパス 次世代ものづくり人材育成センター( C C E )1階工作技術部門

8:00 30		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00 30	14:00 30	15:00 30	16:00 30	17:00 30
平成27年 9月25日 (金)		受付	旋盤 ボール盤 安全教育		休憩	放電加工実習 旋盤				

※ 適時休憩を取る。

表 2 研修日程表